

3月のおすすめ図書

開館時間 平日・土:9:30~18:00
日・祝日:9:30~17:00
休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、
年末年始
問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512



幼児向け

パンダはみがきコンサート

いりやま さとし / 作
講談社

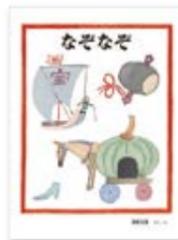


はみがきコンサート、はじまるよ。大きなハブラシを持ったパンダが、グランドピアノの奥歯をシャカシャカ、ゴシゴシ。前歯もキュッキュ、ツルツルリン。いろんな音が聞こえてくるよ…。

小学生低学年向け

なぞなぞ

安野 光雅 / さく・え
福音館書店



かぼちゃのぼしやにのって、おしろのぶとうかいにいったのはだれでしょう。シンデレラ、桃太郎、七福神、火星人など、誰もが知っている空想の世界の住人たちを題材にした、安野光雅による“なぞなぞ”の絵本。

小学生高学年向け

夢中が未来をつくる

山中 伸弥 / 著
サンマーク出版



好奇心は世界を変える-iPS細胞をつくることに成功し、ノーベル賞を受賞した山中伸弥が、これまでの歩みとともに、直面した挫折や苦悩、それらを乗り越えるなかで学んだことを綴る。

中学生向け

崖の上のヒバリたち

シヴォーン・ダウド / 著
エマ・ショード / 絵
宮坂 宏美 / 訳
東京創元社

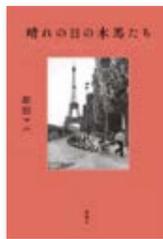


ジムは、トレーラーで集団移動しながら暮らす「パヴィー」の少年。アイルランドの小さな集落で学校に通いはじめるが、偏見や差別、不良たちからの暴力に苦しむ。そんな中、周囲から浮いている少女、キッと親しくなるが…。

一般向け

晴れの日の木馬たち

原田 マハ / 著
新潮社



倉敷紡績で働く少女すてらは、雑誌「白樺」でゴッホの絵を見て心打たれ、「ゴッホが絵を描いたように小説を書く」と自身の道を定める。岡山を去ることになったすてらは、東京へと向かい…。『小説新潮』連載を単行本化。

一般向け

幸運を呼ぶ図鑑

ペズル / 著
門馬 綱一 / 鉱物写真監修
阿部 浩志 / 植物・動物写真監修
三オブックス



どのページを開いても幸運なものばかり! 四つ葉のクローバー、神様が天のふたを開けてこぼれ出た流れ星…。古くから世界各地で信じられてきた「幸運を呼ぶ」「悪運を払う」とされるものを、美しい写真とともに紹介します。

休館のお知らせ

3月2日(月)~3月12日(休)まで
特別整理期間のため休館いたします。
ご迷惑をおかけしますが、
ご理解とご協力をお願いします。



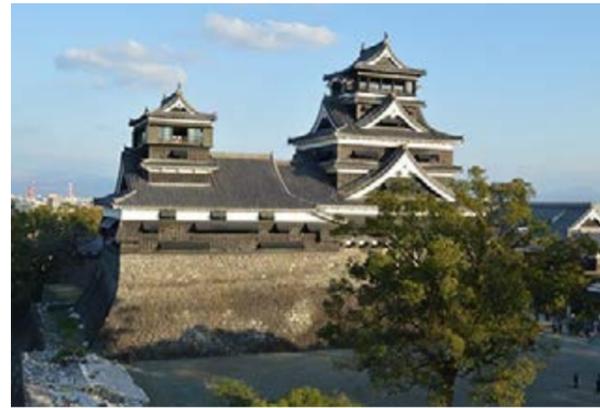
令和7年貸出ベスト3

一般書部門

- 1 カフネ 阿部 暁子 / 著
- 2 架空犯 東野 圭吾 / 著
- 3 禁忌の子 山口 未桜 / 著

児童書部門

- 1 パンどろぼうとりんごかめん 柴田 ケイコ / 作
- 2 パンどろぼう 柴田 ケイコ / 作
- 3 大ピンチずかん2 鈴木 のりたけ / 作



士族に攻撃された熊本鎮台のあった熊本城

今年、明治9(1876)年に発生した「神風連の乱」から、150年の節目に当たります。神風連の乱とは、廃刀令などに不満を持つ士族(元武士)が起こした反乱のことで、熊本鎮台・熊本鎮台司令官宅・熊本県令(現在の県知事)宅を襲撃しました。結果としては陸軍に鎮圧され失敗に終わりました。

宇土から挙兵に加わった人物

宇土から神風連の乱の挙兵に加わったのが、下網田村の河口恒喜という人物です。当時の警察調書によると、河口は、挙兵当日、熊本市草葉町の法然寺に墓参りに行く途中、知人の富永守国という人物の家に立ち寄りしました。実はこの富永という人物は神風連の乱挙兵の中心人物であり、富永から挙兵に加わるように促されます。河口は富永に、両親に相談の上参加すると答えたところ、「同心セサルニ付イテハ打果ス」(協力をしないならば斬る)と脅されたため、仕方なくその場で挙兵に加わりました。こうした経緯を見る

第136回 温故知新 くと学だより 神風連の乱にかかわった宇土の人々

図文化課文化係 ☎(23)0156

宇土の巡査と加々美十郎

神風連の乱発生時の情報は、すぐに熊本警察宇土屯営のもとにも届きました。屯営にいた巡査らは、襲撃を受けた熊本県庁(熊本城内)に急行するようにという指示をうけ、県庁に向かい庁内の守衛の任務に当たりました。また、宇土屯営詰の巡査齋藤勝喜と郡浦屯営詰の巡査河喜多十二は、「神風連の乱に加わっていた加々美十郎ほか6人が、郡浦村(現宇城市三角町郡浦)に潜伏している。彼らを追捕せよ。」と命じられ、郡浦村に向かい探索を行っています。加々美は、郡浦神社祠官の甲斐武雄宅に潜伏し、再挙の機を窺っていました。しかし、同志の自刃の知らせが次々ともたらされたため、再挙は不可能と考え、宇土半島の主峰・大岳(標高477m)の山頂に向かいました。加々美らが甲斐宅を出発した翌日、宇土屯営の山之内巡査が、大岳山頂で、自刃した加々美らを見ました。神風連の乱は陸軍により鎮圧され

と、河口は積極的に参加したわけではなかったようです。討入りの際にも、他の参加者の後ろをついてまわっただけで、混乱に乗じて下網田村の自宅に帰ったものの、父に付き添われて自首しています。

たものの、士族の不満は増す一方であり、各地で士族による反乱が発生します。そして、神風連の乱発生翌年には、西郷隆盛率いる不平士族と、明治政府との間で、西南戦争が勃発することとなります。



郡浦神社に建てられた神風連六烈士の石碑

【参考文献】
『新宇土市史(通史編第三巻)
『新宇土市史(資料編第四巻)』

